

2025年（令和七年）

8月22日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（8月14日～20日）の国際石油市場は、15日の米口首脳会議、18日の米・ベネズエラ・欧州主要国首脳会議の評価をめぐる見方を中心に、小幅な範囲で、ほぼ横ばいに変動した。

NYのWTI原油先物市場は、8月14日、3営業日ぶり反発の63.96ドルで始まり、15日反落、週明け18日反発、19日反落、20日反発の63.21ドルで終わり、60ドル台前半で、小刻みに推移した。

また、中東産バイ原油/東京市場（10月渡し）も、前週（8月7日～13日）は67.60～69.30ドルの範囲で推移したが、当週は、8月14日67.70ドル、15日68.50ドル、18日68.10ドル、19日68.20ドル、20日68.50ドルだった。

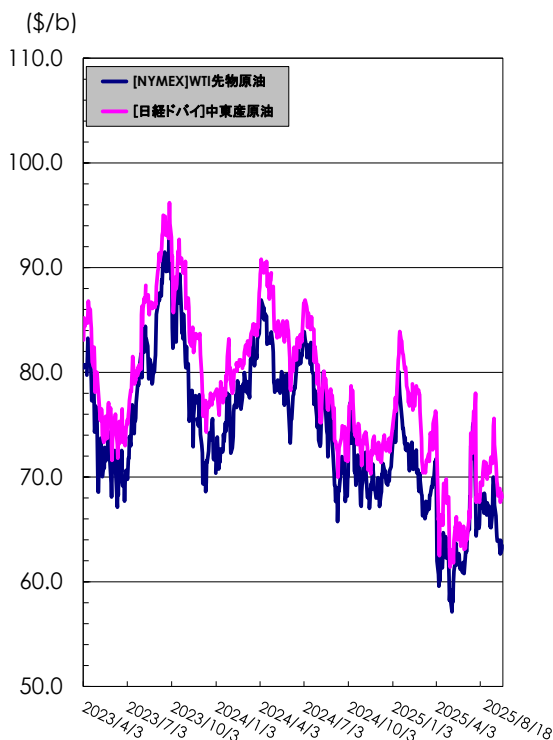
対ドル為替レート（TTM）は前週（8月7日～13日）147.26～148.46円の範囲で推移したが、当週は、8月14日146.69円、15日147.66円、18日147.50円、19日147.90円、20日147.73円だった。

財務省が8月20日に発表した貿易統計（速報・旬間）による

と、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は66,459円/KLで前旬比1,787円/KL高、ドル建てでは71.90ドル/Bで前旬比0.73ドル/B高、為替レートは1ドル/146.95円。また、7月月間の原油輸入平均CIF価格は65,297円/KLで前月比1,695円/KL高、ドル建てでは71.28ドル/Bで前月比1.07ドル/B高、為替レートは1ドル/145.64円。

そのような中で、8月18日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円安、軽油も同0.1円安、灯油は同1円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は174.7円だった。8月21日～27日の燃料油補助金の支給額は、次週予想金額が175円未満となったため、「予防的な激変緩和措置」の発動がなく、定額分だけと、ガソリン・軽油の場合10円で前週比据え置き、灯油・重油の場合も5円と同据え置きとなった。

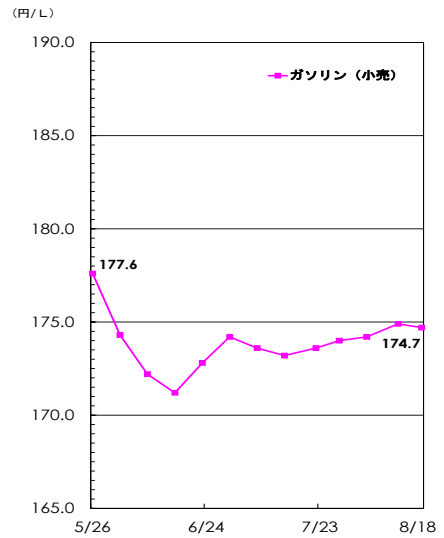
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/10 ~ 8/16	2,740 ▲ 135	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.1 ▲ 3.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/16	11,918 ▼ -28	▲ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	8/18	68.10 ▼ -0.80	▼ -9.9
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/18	63.42 ▼ -0.54	▼ -11.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月下旬	71.90 ▲ 0.73	▼ -16.14
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	66,459 ▲ 1,787	▼ -21,978
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	146.95 ▼ -2.48	▲ 12.75
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/18	148.50 ▲ 0.96	▲ 0.43



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	8/16	1,501	▲ 32	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/12 ~ 8/18	81.0	▲ 1.5	➡ 0.0
		(TOCOM/中部) 8/18	79.0	➡ 0.0	➡ 0.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/18	174.7	▼ -0.2	▲ 0.2

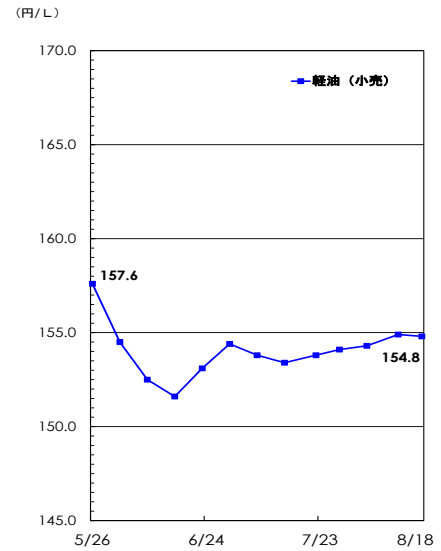
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

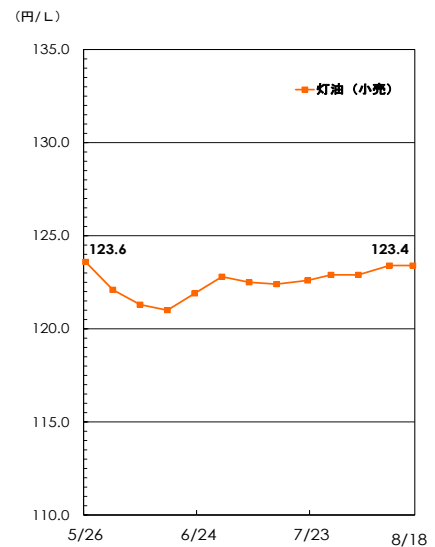
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	8/16	1,644	▲ 187	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/12 ~ 8/18	82.7	▼ -1.0	▲ 1.3
		(TOCOM/中部) 8/18	-	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/18	154.8	▼ -0.1	▲ 0.6

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	8/16	2,497	▲ 50	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/12 ~ 8/18	81.0	➡ 0.0	▲ 1.0
		(TOCOM/中部) 8/18	82.0	➡ 0.0	▲ 2.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/18	123.4	➡ 0.0	▲ 6.2



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(8月7日～13日)のNYMEX・WTI先物市場は、62.65～63.96ドルの範囲で推移した。

当週8月14日は、アラスカにおけるウクライナ停戦を巡る米ロ首脳会談を15日に控え、様子見ムードの中、米国内では、利下げの早期実施観測が高まり、需要活性化期待から、3営業日より反発した。9月物終値は前日比1.31ドル高の63.96ドル。

週末15日は、アンカレッジで米ロ首脳会議が開催、作り上げられた「友好ムード」の中で、対ロ経済制裁の強化は遠のいたとの見方から、売られ反落した。また、この日発表の中国の7月の鉱工業生産も5.7%の伸びと、6月から鈍化、8か月ぶりの低成長に止まったことも値下がり要因となった。9月物終値は前日比1.16ドル安の62.80ドル。

週明け18日は、15日の米ロ首脳会談に続き、トランプ大統領がウクライナのゼレンスキー大統領と会談、3者会談に意欲を示す中、ウクライナ軍は、ロシアの製油所・パイプラインをドローン攻撃、供給懸念が高まり、反発した。9月物終値は前週末比0.62ドル高の63.42ドル。

19日は、トランプ大統領が前日の米ウクライナに加えた欧

州首脳との会談で、ウクライナの安全保障にも言及、ロシアも軟化姿勢を示したことで、緊張感は緩和、反落し、中心限月ベースで、5月末以来の安値を記録した。9月物終値は1.07ドル安の62.35ドル。

20日は、米国石油在庫週報が発表、原油・ガソリンともに、市場予想を上回る取り崩しで、米国経済・石油需要の底堅さを印象付け、反発した。但し、米金融関係者の集合するジャクソンホール会議におけるパウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長の利下げに関する講演内容を見極めたいとする様子見姿勢も強く、上値は重かった。9月物終値は0.86ドル高の63.21ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の、8月20日発表の15日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比600万バレル減、ガソリン在庫は270万バレル減と、双方ともに市場予想を上回る取り崩しで、米国の石油需要の底堅さを印象付ける結果だった。

EIAによると、8月18日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.7セント高の1ガロン3.125ドル(122.4円/ℓ)と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.1セント値下りの1ガロン3.713ドル(145.5円/ℓ)と4週連続の値下がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、8月15日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の412基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年08月10日～08月16日に休止したトッパー能力は27.8万バレル/日で、前週に対して5.8万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は274.0万klと、前週に比べ13.5万kl増加。前年に対しては27.9万klの増加。トッパー稼働率は79.1%と前週に対して3.8ポイントの増加、前年に対しては8.0ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

8月16日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油、軽油、A重油、C重油ともに積み増しとなった。

ガソリンは150.1万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては15.4万kl多い。

灯油は249.7万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては69.1万kl多い。

軽油は164.4万kl、前週差18.7万kl増。前年に対しては18.9万kl多い。

A重油は78.4万kl、前週差6.1万kl増。前年に対しては6.6万kl多い。

C重油は163.9万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては10.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/16)	前週 (8/9)	前週比
ガソリン	1,501	1,469	▲ 32 (2%)
ジェット燃料	882	853	▲ 29 (3%)
灯油	2,497	2,447	▲ 50 (2%)
軽油	1,644	1,457	▲ 187 (13%)
A重油	784	723	▲ 61 (8%)
C重油	1,639	1,598	▲ 41 (3%)
合 計	8,947	8,547	▲ 400 (4.7%)

5 国内/元売会社製品卸価格

8月12日～18日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替の円安がわずかにこれを相殺したが、元売会社の卸建値は値下げしたものと見られる。ただ、8月21日からの補助金も、「予防的な激変緩和措置」が解除され、定額補助金10円だけで、前週比据え置き(揮発油・軽油の場合。灯油・重油は5.0円)となったが、補助金込みの実質卸価格は、小幅な値下がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

8月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の174.7円、軽油も同0.1円安の154.8円、灯油は18%ベースで同1円安の2,221円(1%ベースでは横ばいの123.4円)。ガソリンは5週ぶりの値下がり、軽油も5週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり15府県、横ばいは2県、値下がり30都道府県だった。全国最安値は愛知県の168.8円、その次は埼玉県の169.5円であった。他方、最高値は鹿児島県の185.0円。最も値上がりしたのは鹿児島県(前週比0.8円高)、最も値下がりしたのは東京都(同1.1円安)だった。

次回調査時(8/25)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/18)	前週 (8/12)	前週比	直近高値
レギュラー	174.7	174.9	▼ -0.2	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	123.4	123.4	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.8	154.9	▼ -0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第21号)の公表は、8/29(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。